てんぷら雑

'13.4.No 190
発行責任 前田昭
0893-88-5292

きます きます 皺が 増える

人は、年老いていく程、皺が増えていくのは仕方がない。どんなに美女、美男であっても、いつまでもスベスベ肌を保つことは不可能なことでしょう。

年を重ねれば、皺となって味わい深い顔の人になってくる、老こがべきか悲しむべきか。

同じ様に避けて通れない事に死もあります、この世に生きている物(者)すべてに死は訪れる。

突然、訪れるか自然に訪れるかの違いはあっても、平等に死は訪れる。が、若い時、元気な時は、意識しないで、「明日」は当然来るものとかもっています。

でも現実には、誰にも明日は約束されていないのです。知らぬ振りをしてるだけで…、

こんなに美しい福寿草も、咲いてる時は、人にも見られ、虫たちも訪れるが、そんな時はわずかな時間だけ、夏の陽が強くなる頃は、誰も福寿草の事は言いませんよね。

でも、福寿草は、次の春には、また花を咲かせます。何年経ってのかわ知りませんが、大きな気候の変化、環境の変化がない限り咲きます。

しかし、人の場合は、そうではありませんよね。

「生まれ変われる」という考えもあるようですが

ひっそりと 今年も咲いた 福寿草

生まれ変った人に逢った人はいるのでしょうか。

とにかく、人の死にあうと、皺がより深く増えてくる様におもいます。

二月には、しばらくしてから、祖谷で出逢い、自然や山野草、平家落人伝説等、祖谷の歴史、生活史など教わったM氏をたずねました。「あれやれ、これやれ」と教わったのではなく、M氏と行動をともにし、話を聞くことで、祖谷の事を知り、祖谷での楽しみを教わりました。

高年令だったとはいえ、身にこたえました。

そして、三月、東日本大震災から二年目の今年。まだまだ先が見えない被災地、原発でこの先何多の人が突然十年も故里へ帰ることの死を迎え、今だに不明の人もいる。

東北地方の災害だとはいっても、重く心にのしかかる。

その十一日が終って すぐの十二日に、義弟を失うことになるとは……。

入院し、何回か見舞にも行ったり、一日付添いをしたりしたけど、病気と闘っている姿を見ても、何も出来ない自分がいて、くやしいおもいをしました。

誰にも来る死であっても、自分より若い人を失うことは、本当に悲しくもあり、くやしくもあります。

そんなのが四人目となりました。

そしてもう二十年の内に、自分より若い身近な人を七人目とターンして

順番にそくなるのは、受け入れ易いけれど、年下は本当にショックです。

そうけど、その時を楽しみ、喜こび、皆んなの分も生きていくしかないのです。

まます皺は増え、身体は弱っていくのだろうけど、